

令和元年度
文化アセスメント
実施結果報告書

2020（令和2）年11月

川崎市文化芸術振興会議

令和2年11月19日

川崎市長 福田 紀彦 様

川崎市文化芸術振興会議 会長 垣内 恵美子

令和元年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興条例第8条の規定に基づき、令和元年度の文化アセスメントを実施いたしましたので、結果を御報告いたします。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「第2期川崎市文化芸術振興計画（改訂版）」上の重要な事業を選び、選んだ事業の取組内容について実地に確認を行いながら、事業の目的や文化芸術性、市民との関わり、効率性などについて総合的に検証した上で、本来の事業目的の達成に向けた改善の方向性等について文化政策的提言を行うものです。

令和元年度の文化アセスメントの対象事業は、2018（平成30）年に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が制定され、今後ますますの取組が期待される「パラアート推進事業」、及び区役所が地域の協力を得ながら進めている「高津区音楽のまち推進事業」の2事業としていました。ところが、令和元年度末に突如広がった新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術事業が各地で中止・延期となる中、文化アセスメント対象事業も残念ながらその一部が中止となりました。また、審議を行う会議の開催自体も延期を余儀なくされ、2事業の文化アセスメントの実施が難しい状況となりました。そこで、既に、主要な取組の実地調査が終了していた「パラアート推進事業」についてのみ文化アセスメントを実施することといたしました。その評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が展示や講座、広報の状況等を視察・確認し、その上で、担当行政部局からのヒアリングを書面で行い、会議ではテレビ会議システムを導入するなど感染症対策を行い、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書として取りまとめたものです。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、現時点での最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の文化芸術振興施策に適切に反映されることを期待いたします。

また、新型コロナウイルスの影響はまだまだ終息に至りませんが、条例の前文にもあるように、「文化芸術は、今日、市民が人間らしく豊かに暮らすために不可欠のものであり、世界平和の礎を築き、都市生活の質を高める重要な役割を担うとともに、創造的な市民や

企業を育て、持続的に発展する都市をつくり出す源となるもの」であり、これまで川崎市が市民とともに積み上げてきた文化芸術活動を決して絶やさず、今後もより発展させていくことで、「個性と魅力が輝き、市民が生き活きと心豊かに暮らせるまちづくり」を進めていくことを願っています。

令和元年度文化アセスメント実施結果報告

対象事業及びその選定理由・実施経過

I パラアート推進事業

1 選定理由

パラアート推進事業は、第2期川崎市文化芸術振興計画（改訂版）の基本目標3施策3「文化芸術活動への市民参加の促進」に該当する事業であり、2018（平成30）年に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が制定され、今後ますますの取組の充実が期待されるとともに、その取組により、文化芸術を通じたダイバーシティ（多様性）とソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の推進への貢献が期待される事業であるため。

2 実施経過

(1) 実地調査（※は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

- ① 令和元年11月20日 Colorsかわさき2019展
- ② " 第1回パラアート・ミーティング
- ③ 令和2年3月8日 第2回パラアート・ミーティング※
- ④ その他 パラアート・プラットフォーム（HP）の随時確認

(2) 事業担当課ヒアリング

令和2年6月12日 第52回会議（書面）

(3) 報告書案の検討、確定

令和2年9月2日 第53回会議

II 高津区音楽のまち推進事業

1 選定理由

高津区音楽のまち推進事業は、第2期川崎市文化芸術振興計画（改訂版）の基本目標3施策2「市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供」に該当する事業であり、地域の音楽大学や人材と密接に連携しながら、多様なプログラムを身近な場所で市民に提供するという区役所ならではの取組であり、「かわさきパラムーブメント」のレガシーの一つである「誰もが文化芸術に親しんでいるまち」の形成に貢献が期待される事業であるため。

2 実施経過

(1) 実地調査（※は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止）

- ① 令和元年12月4日 子どもの音楽体験事業Ⅰ（こども文化センター演奏者派遣及びキッズパーカッション体験（練習））
- ② 令和元年12月7日 区民音楽祭（キッズパーカッション体験（本番）を含む）
- ③ 令和2年3月7日 子どもの音楽体験事業Ⅱ（初めてのリトミック）※
- ④ 令和2年3月8日 高津クラシックコンサート※

(2) アセスメント報告の取りまとめの中止

高津区音楽のまち推進事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実地調査を予定していた取組（2件）が中止となり、実地調査が、多様に展開している当該事業のごく一部となったこと、また、事業課ヒアリングを予定していた当会議の開催自体が延期となったことから、アセスメントを実施するための十分な調査ができず、報告書として取りまとめを行わないこととした。

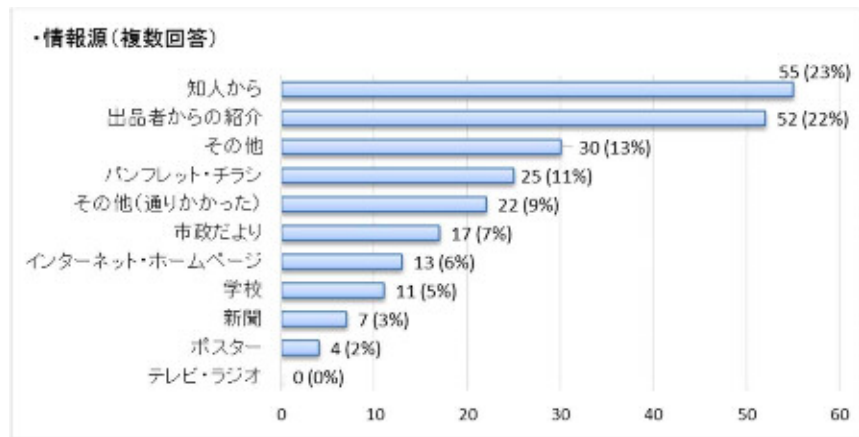
2 評価結果

パラアート推進事業 (1) 事業の目的・概要

担当課	市民文化局市民文化振興室	
振興計画上の位置づけ	基本目標 3	市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備
	施策 3	文化芸術活動への市民参加の促進
事業概要	東京 2020 オリンピック・パラリンピックのレガシーとして社会的包摂の進んだまちづくりを目指し、展覧会など、障害者による文化芸術の普及促進などを通じて、障害の有無にかかわらず文化芸術に親しめる環境づくりを進める。	
目的	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた川崎市の「パラムーブメント」の方針に基づき、障害等のある人もない人も共に文化芸術に取り組める社会的包摂の進んだ社会の実現のために、その基盤となる環境（パラアート・プラットフォーム）を整えること、また、本事業の実施により障害の有無にかかわらず共に文化芸術に積極的に取り組む機運の醸成及び障害等のあるアーティストの人材育成に寄与することを目的とする。	

取組

番号	名称	概要															
1	展示プログラム	<p>(1) 「Colors かわさき 2019 展」開催</p> <p>概要：障害の有無にかかわらず、一つ一つの作品の魅力をダイレクトに伝える展覧会の開催。</p> <p>障害福祉施設等のアーティストの作品、市立特別支援学校の子どもの作品、市立幸高校生有志と障害のあるアーティストが“多様性あふれる未来の川崎のまち”をテーマに共同制作した作品を展示。</p> <p>開催に向けては、出展施設の公募に加え、絵画講師を障害福祉施設や特別支援学校、中原市民館へ派遣し制作指導を実施。会場では、出展作品（一部を除く）の「販売支援につながる情報提供」も実施。</p> <p>日時：令和元年 11 月 15 日（金）～11 月 24 日（日）10:00～18:00 会場：ミュージア川崎シンフォニーホール企画展示室 主催：公益財団法人 川崎市文化財団 共催：川崎市、川崎市教育委員会 助成：平成 31 年度文化芸術振興費補助金 （文化庁文化芸術創造拠点形成事業）（文化庁） 共催：川崎市、川崎市教育委員会 来場者： 1,235 名 図録作成：2,000 部</p> <p>実施結果 （アンケート結果）：</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <caption>アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>件数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>とても良かった</td> <td>154</td> <td>70%</td> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td>64</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>ふつう</td> <td>3</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>あまり良くなかった</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「とても良かった」、「良かった」の回答が 99%</p> </div>	評価	件数	割合	とても良かった	154	70%	良かった	64	29%	ふつう	3	1%	あまり良くなかった	0	0%
評価	件数	割合															
とても良かった	154	70%															
良かった	64	29%															
ふつう	3	1%															
あまり良くなかった	0	0%															



(2) 展示作品制作

(制作)

①障害福祉施設等の公募(出張指導なし)	10 施設	38 作品
②障害福祉施設等の公募(出張指導あり)	2 施設	9 作品
③絵画教室(個人参加者を公募し、4回開催)	8 名	8 作品
④特別支援学校児童生徒(出張指導あり)	3 校	56 作品
⑤市立幸高校生有志と障害のあるアーティストの共同作品	約 15 名	1 作品

(作品)

①障害福祉施設及び絵画教室等のアーティスト	55 点
②特別支援学校児童生徒	56 点
③市立幸高校生有志と障害のあるアーティストの共同作品	1 点

(3) 販売支援につながる情報提供

作品販売支援の結果

(ポスティング(入札)を通じた、作品購入希望者と作品所有者等の当事者間での取引結果)

- ・入札対象作品数..... 39 品
- ・入札参加者数..... 11 名
- ・入札数..... 20 通
- ・入札された作品数..... 19 作品
- ・販売総額..... 698,100 円
- ・入札最高額..... 73,000 円

※別途、出展アーティストに作品制作や販売の依頼が2件

(4) 展覧会関連イベント

ワークショップ(計3回)、ギャラリートーク(計4回)、交流会(1回)等の実施

(5) 巡回展

「手をつなぐフェスティバル」と連携実施

日時：令和元年11月30日(土)10:00~15:00

会場：とどろきアリーナ

主催：川崎市(健康福祉局)

実施：手をつなぐフェスティバル実行委員会

(NPO法人川崎市障害福祉施設事業協会、公益財団法人川崎市身体障害者協会)

来場者：285名

2	HP情報発信プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市文化財団ホームページ内にパラアート関係の情報収集・発信サイト「ぱらあーとねっと」を開設（ウェブアクセシビリティ対応を考慮）・川崎市文化財団ホームページ内に Facebook「ぱらあーとねっと」を開設 ・「ぱらあーとねっと」広報用チラシの作成（1,000部） 等
3	ネットワーク形成プログラム	<p>パラアート関係者の交流やコラボレーションを促進するためのネットワーク会議等を開催。パラアート関係者が抱える課題や中間支援に関するニーズ等の把握</p> <p>(1) 第1回パラアート・ミーティング「障害のある方のアート活動指導を考える講演会&座談会」 日時：令和元年11月20日(水)18:30～20:30 会場：ミュージア川崎シンフォニーホール研修室1～3 講師：金子 光史 氏（絵画工房「フェース of ワンダー」主催） 参加者数：26名 参加申込（定員30名）</p> <p>(2) 第2回パラアート・ミーティング 新型コロナウイルスにより中止</p>
4	一般公募プログラム	<p>障害のある人もない人も一緒に文化芸術活動に取り組める環境づくりや鑑賞できる環境づくりを推進するために、様々なニーズのある人を包み込み、支え合う社会の形成に向けた課題解決に取り組むため、モデルとなる事業を発掘し、事業の成果を先行事例として広く発信することを目的に一般公募した団体に事業の委託（5事業を実施）</p> <p>(1) 公益財団法人 神奈川県社会復帰援護会 「当事者による三色パステルアート普及活動及パラアートによる地域交流事業」 精神障害のある当事者が講師となり、応募のあった福祉施設等8か所へ出向いて、誰もが簡単に個性溢れる絵を描くことができる3色パステルアートのワークショップの実施</p> <p>(2) 一般社団法人 ピッカ 「音を絵にしてみよう！子どもたち&障害児の為のジャズでアートチャレンジ」 ジャズを楽しみながら開放的な創作活動ができるとともに、プロのアーティストによる講評も設けることで自信形成を目指す、賑やかな親子向けアートチャレンジ教室の開催（1回）</p> <p>(3) 一般社団法人 ソーシャル・アーティスト・ネットワーク 「パラアート地域交流サロン推進人材育成事業」 アート活動を通じて障害の有無を超えた交流と相互理解を推進できる人材の育成を目指し、パラアートに関心のある若手演奏家や市民の方等を対象に連続講座等を開催（4回）</p> <p>(4) かわさきミュージックチャレンジ 「かわさきミュージックチャレンジコンサート ～みんなでチャレンジ～」 障害のある方の発表の場として、またプロの演奏を気兼ねなく楽しめる場として、演奏者と観客が障害の特性を理解し合い、共に楽しめる音楽会を開催（1回）</p> <p>(5) NPO法人 打楽器コンサートグループ・あしあと 「こころに響く打楽器つくっちゃお♪」 打楽器に精通した演奏家たちが、応募のあった障害福祉施設3施設へ出向いて、楽器づくりや演奏体験まで楽しめる工夫を凝らした演奏会を実施</p>

5	連携プログラム	<p>(1) あさお芸術のまちコンサート推進委員会 『あさお芸術のまちコンサート』におけるパラアート作品展とミニコンサートの開催</p> <p>(2) 手をつなぐフェスティバル実行委員会 『手をつなぐフェスティバル』における Colors かわさき 2019 展巡回展の開催</p> <p>(3) 公益財団法人 川崎市身体障害者協会 『川崎市障害者作品展』におけるワークショップの開催</p>
---	---------	--

(2) 評価

取組への評価
パラアート推進事業
<p>(1) 事業の目的（設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性）</p> <p>本事業の目的は、本市文化芸術振興計画の基本目標の1つである「市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備」への貢献が見込まれ、ダイバーシティ（多様性）とソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）を進め、持続可能なまちづくりの実現を目指す本市の方向性に合致し、妥当なものである。また、市の「パラムーブメント」の理念・方針に沿ったものであり、2021年のオリンピック・パラリンピック後も見据え、取組を続けていくことが望まれる。</p> <p>事業内容としては、「展示プログラム『Colors かわさき展（以下「Colors展」という。）』」をはじめ、ホームページ情報発信プログラムやネットワーク形成プログラムなど5つの取組により多様な事業が行われている。Colors展の来場者数や巡回展の開催場所・開催回数には増加の余地があると考えられ、また、事業を広く市民に知ってもらうためのホームページを含めた情報発信・広報活動の充実が望まれるなどの課題はあるものの、Colors展のアンケートでは多くの来場者が好評価をしており、また、「パラアート・ミーティング（講演会と座談会）」では参加者が講座から学び、参加者同士で情報交換が行われ、企画の意義を理解している様子が見られるなど、事業目的は概ね達成されていると考える。</p> <p>達成手段についても、Colors展では、展示作品を公募することにより新規のアーティストに展示機会を広げたり、ホームページ情報発信プログラムでは、フェイスブックを開設して情報発信のプラットフォームを目指したり、多くのメニューにより適切に事業展開がなされている。今後は、関係者だけでなく広く市民とつながる環境づくり、市民参加を促す実施・推進体制の検討、及び広報活動の更なる充実が必要であると考ええる。</p>
<p>(2) 文化芸術性（独創性、育成支援）</p> <p>パラアートに関する展覧会は、他都市でも開催されているが、本事業は、「障害のあるなしにかかわらず親しめる文化芸術活動の推進」に特化したプログラムを体系的に企画し、実施している点が評価できる。また、パラアート作品の販売支援の取組は事例が少なく、報道にも取り上げられるなど関心を集めており、「パラアート」という特性によらない適正価格の維持などの課題を考慮しながら、パラアートが持っている自由な精神を維持して展覧会を続けることに意義があると考ええる。</p> <p>また、ネットワーク形成プログラムのパラアート・ミーティングでは、障害福祉施設の職員等の参加者が、パラアートに携わる講師からパラアートの制作に関わる適切な対応を学び、情報交換する場となっており、参加者がここで得た知識をそれぞれの職場で活かしていけば、本事業の趣旨がさらに広がっていくと期待できるものであった。</p> <p>さらに、Colors展の開催にあたっては、公募による作品募集や絵画教室からの作品応募を行って新規アーティストによる出品につなげたり、支援学校や福祉施設に講師を派遣したり、子どもたちや市民に向けたワークショップを行ったりして、障害のあるアーティストや広く市民・子どもたちの人材育成に寄与する取組が行われている。</p>
<p>(3) 市民とのかかわり（参加、満足度、周知度）</p> <p>Colors展の運営サポートボランティアに、障害福祉施設の職員やアーティスト等が参加し、また、各イベントには、市民参加を促す体験型プログラムが実施されていた。市立幸高校と連携する取組もあり、今後も、中高生あるいは大学生などの若い世代や、関係者だけではなく一般の人も気軽に参加・鑑賞できる環境づくりが重要である。さらには、オンライン技術を活用することで、会場に来られない人もパラアートに触れ、参加できる仕組みづくりを期待したい。</p> <p>満足度としては、Colors展では、アンケート回答者の約99%が企画について肯定的な回答となっており、高評価である。ただし、展覧会の場所が、通りがかりに気軽に寄れるという環境ではなく、周知度については課題があり、巡回展の開催場所・開催日数の拡充や通年展示の検討が望まれる。また、「パラムーブメント」や「パラアート」自体が市民に十分に伝わっていない懸念があるため、新規に開設したホームページ「ばらあーとねっと」においてパラアートのイベントや作品を</p>

集約することにより、市民の理解、認知度がさらに進むことを期待したい。

(4) 効率・効果（波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化）

パラアートは芸術の新しい分野として確実に成果を上げており、これらの作品から学ぶことは多い。Colors 展において、図録を発行していることは記録として残ることと波及効果が期待できる面から重要なことであり、評価できる。

一般公募プログラムや連携プログラムでは、特に市内の障害福祉施設や特別支援学校、NPO 法人等との協働が図られていたが、全体として、企業や市民団体等との連携はこれからの課題だといえる。川崎市文化財団がパラアートの中間支援機能を強化することにより、行政と民間団体、また、民間団体同士の連携がさらに進むことが望まれる。

費用対効果に関しては、一定の予算の中で多岐にわたる取組が実施されており、また、文化庁の「文化芸術創造拠点形成事業」補助金の交付（3年間）を受けるなど、効率的、効果的な事業推進に取り組んでいる。

総合評価

A : 継続 B : 改善 C : 見直し

評価の理由等

本事業は、障害の有無にかかわらず共に文化芸術に積極的に取り組む機運の醸成及び障害等のあるアーティストの人材育成に寄与するという目的のもと、展示プログラムなど5つの取組を実施することにより、文化芸術振興計画の基本目標の1つである「市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備」への貢献が見られ、今後も取組を続けていくことが望まれるものである。

特に、展示プログラムにおいては、新規のアーティストの参加を促進し、関連イベントの開催により人材育成が行われると同時に、販売支援などにより注目を集めるなど、独創性は高く評価できる。

今後については、「パラアート」に対する理解を広く市民に広げ、認知度を上げていくこと、及び、障害福祉施設や関係者だけでなく、一般企業、団体、市民に連携を広げるための取組を充実させるとともに、財源の確保に努め、効果的・効率的な手法による継続的な事業の実施を期待する。

提言

・関係者のみならず幅広く市民に事業を周知し、事業の意義・目的を理解してもらうために、広報の幅を広げるとともに、巡回展の拡充や通年展示の検討など、市民がパラアートに触れる機会を増やす取組が求められる。

・障害の特性や遠方に在住、その他様々な事情により会場に来られない人が事業に参加、鑑賞できるように、オンライン技術を積極的に活用した取組が望まれる。

・ダイバーシティ（多様性）とソーシャルインクルージョン（社会的包摂）を、より一層推進するためには、関係者だけでなく、一般企業、団体、市民との協働、連携を広げるための取組の充実や、それらの連携先を巻き込んだ推進体制の構築が必要である。

・東京2020オリンピック・パラリンピック後も、障害の有無にかかわらず誰もが文化芸術に参加できる環境づくりを進めるため、長期的な財源確保策を講じながら、参加しやすい事業内容や会場を選択したり、常に新たなアーティストを発掘できるような仕組みづくりを構築するなど効果的・効率的な手法により事業を継続することが望まれる。

令和元年度文化アセスメント実施結果報告書
2020（令和2）年11月

川崎市文化芸術振興会議

（事務局） 川崎市市民文化局市民文化振興室
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-2
電話 044-200-2029
FAX 044-200-3248